

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2070200411		
法人名	医療法人 心泉会		
事業所名	グループホームローズガーデン		
所在地	松本市大字中山7494-8		
自己評価作成日	平成23年11月15日	評価結果市町村受理日	平成24年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?PCD=20&JCD=2070200411&SCD=320
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	有限会社 エフワイエル
所在地	松本市蟻ヶ崎台 24-3
訪問調査日	平成23年12月2日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

<ul style="list-style-type: none"> ・老人保健施設の併設型グループホームとしてのメリットを最大限に活かすこと。 ・併設施設の医療面のバックアップによる安心機能。 ・併設施設の設備や職員を利用することで、よりバリエーションを広げた生活環境の構築。 ・恵まれた自然環境の基で、四季の移り変わりを感じながら仲間と生活する喜びを感じていただくこと。 ・地域の皆さんとの交流や訪問していただく方々との親睦を深めること。 ・グループホームの理念を実践していくこと。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

<p>グループホームローズガーデンの玄関を入ると、入居者一人ひとりの分厚いアルバムが目に入る。そこには訪問者・家族が知りたい、入居者の今があり、本人の生活の様子がまとめられている。アルバムを話題として本人と話す家族や訪問者・職員の会話は弾み、ひと時の時間がとても長く感じる魅力的なグループホームである。</p> <p>何気ない入居者の一日の生活が、職員の支援により、一人ひとりの思い出作りの日々と感じてしまうのは、認知症を理解した上での本人の今を知り尽くした、経験豊富な職員の存在があると実感する。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名()		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	暖かく思いやりを意識して、笑顔を絶やさず接することができるよう、心掛けています。	ホームの理念を独自の分かりやすいものとしており、職員共通の理解を得て日々のケアで具現化している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の福祉広場(体操)はなかなか参加できないが、福祉祭りには参加している。また、中山地区の敬老会には参加し、地域の方々と交流ができました。	立地条件から日常的な近所付き合いは少ないが、デイケア利用者や地域高齢者との関わり、地域活動への参加など、接点を広げる努力をしている。	地域の方が訪問できる機会や企画の検討を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において認知症やグループホームの説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	テーマとして、「食事作りについて」を取り上げたところ、委員の皆さんから良い評価をいただいたので、今後も普段行っていることを取り上げ、意見をいただきたいと思います。	定期的に開催される会議ではホームの状況報告や、時には具体的なテーマを決めて参加者にホームの取り組みを説明し理解を深めている。	参加者との積極的な意見交換など、参画意識が芽生える形にすることも、ホームの理解を深めるものとする。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとは、運営推進会議にて意見交換をして、連携を保っており、行政担当者とは、制度についての意見交換等を行っている。	運営推進会議は勿論、日常的に話し合える関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていません。身体拘束についての研修を行い、勉強しています。	研修会を繰り返して職員の意識を高め、尊厳を大切にされたケアの継続に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人や施設内で研修会や勉強会を行っている。また、利用者にも少しでも異常があると思われる場合は、全スタッフで確認し原因の究明を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで、学ぶ機会がなく、今後勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、事務部門で行うようになっているため、今後はグループホームの担当者が行うように変更していきたい。内容の疑問等についてはその都度スタッフが説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に面会時にご家族の方の意見を聞くようにしており、ケアプランについても説明している。また、利用者様の状態についても伝えている。	家族の意見・要望を「家族面会連絡ノート」に記録し、関係職員の検討を経てサービスの向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	併設施設との定例会議や、グループホームの毎月のミーティングにおいて検討されている。	各会議や日常業務の中から意見・提案を聞き、可能な件については迅速に対応をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在、法人において新たな人事評価制度を構築中であり、職員全員で協力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の方針として、個人のスキルアップのための研修計画や各種資格取得への応援態勢が整備されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松本圏域のグループホームの定例研修会への参加や、長野県と同業者のネットワークに加盟しており、積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際は、ご本人と十分に話し合いを行い、どのように生活を営みたいのかをお聞きして、希望に沿えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際には、ご家族とも十分な話し合いを行い、グループホームでの生活について、ご本人の希望や不安などを検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との話し合いの中で、こまめに対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や盛り付け、後かたづけ、味噌汁作り、おやつ作りをいっしょに行うことでコミュニケーションをとりながら、仲間としての関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの見直しをご家族とともにいながら、常に同じ立場でご本人のことを考えるような関係を築くことを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月の外出の中で、利用者様の行きたい所を聞きながら、松本周辺のドライブができました。 利用者様の実家のお寺に行くこともできました。	「～へ行きたい。」との希望がある場合は計画を立て、積極的に叶える取り組みをしている。 また、馴染みの人への訪問支援は検討中である。	外出支援記録に、職員の働きかけや本人の反応などの記録を加えることも、ホームの質の向上に貢献すると考えたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を尊重し、大切にすることで、利用者同士のトラブルに配慮しながら、協調していく関係作りを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後でも、必要に応じ相談や助言を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、どのように生活をしていきたいのか、どんなことをしたいのか、コミュニケーションの中から汲み取れるように努力している。	本人に寄り添い関わりを密にする事を最優先することで、会話や行動から把握しやすい環境を保持して、得られたことをミーティングで話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のご家族との話し合いや、ご本人との会話の中から、これまでの様々な情報についての把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人一人が日々の様子を観察することで、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係する部署や以前の様子を知っている方からの情報、またご家族からの意見を取り入れて、スタッフ全員で介護計画を作成している。	介護計画は関係職種が加わり、総合的な視点からの本人・家族の意向に添った計画となっている。 また、定期的なモニタリング・見直しを経て、本人の今に即した計画でもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録を詳細に行うことで、職員間で情報を共有し、介護計画の作成に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員を増やしたことにより、突発的な状況や個別のニーズに対応できるように工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の福祉広場に参加したり、ボランティアの方々、小中学生との交流を積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院はもとより、本人の希望があれば、かかりつけの医療機関への付き添いも行っている。	希望する主治医への受診を支援している。また、医師との情報交換なども本人用の受診ノートに記載・把握して、連携が図れるように工夫している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老健の看護師には、日々利用者の状況を伝えており、状況に応じた適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院とは日々連携をとっており、情報交換を行うことで、ドクターやナースとの協働もできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、ターミナルケアの方はいませんが、マニュアルが作成され、対応できるようになっています。	マニュアル等は整備されているが、その周知などの取組が不十分と感じる。	内部研修の実施など、関係職員の周知度の向上を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的に行っていないので、今後の課題である。但し、急変時には併設施設より看護師のサポートは速やかにおこなわれる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	老健と合同で行う防災訓練にて、意識を高め、必要な知識を身に付けるようにしています。内田地区とは、防災無線の対象施設に加えて頂き、3ヶ月毎に訓練に参加しています。	併設施設との合同での避難訓練を定期的に行っている。また、他事業所・地域との協力体制は整っている。	グループホームの入居者を取り巻く非常事態に対応すべく、訓練の実施記録やマニュアル等の見直しを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	面会時には、それぞれの居室でご家族の方とゆっくり話ができるように配慮しています。	職員以外の入室は家族の同意を得るなど、入居者のプライバシーへの配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に合わせた声かけを行い、ご本人の意見や希望を職員がしっかりと把握できるように対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の生活のリズムが違うということを理解し、個別の声かけの中で本人の希望を把握する様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服はご本人の希望を聞き、好きな洋服を選んで着ていただいている。また、髪型を変えたり、アクセサリーをつけたりしておしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週水曜日の食事作りの時には、入居者様と一緒にメニューを考え、食材の買い出しや調理を皆で行っています。	得意な事や好きな場面の提供で、本人自らが「自分の仕事」と張り合いを持って参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量については、個人の状態や好みに合わせて対応している。水分については、食事やお茶だけでなく、こまめに摂取していただけるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、毎食後に歯磨きを行っている。自分でできる方は本人が、できない方は職員が行うとともに、最終的に確認は職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを掴み、トイレ誘導を行うことで、排泄の失敗が少なくなってきた利用者様があります。	本人のレベルの低下が進む中でも、排泄の失敗をなくす努力や工夫を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活の中で、ヨーグルトや水分摂取を促しながら、毎日体操も行っている。また、便秘がちな方には、個別に乳酸菌飲料を飲んでいただくなどの配慮をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様から、午前中の入浴希望があったので、午前中の入浴利用者が増えてきました。利用者様の体調や、希望により時間帯を変更して行っています。	拒否のある方には臨機応変に対応したり、同性介助の希望に応えたりと、本人の希望に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたいときには、いつでも休めるように個人個人のリズムを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理しているが、薬の具体的な内容までは把握できていないので、今後はカンファレンスで勉強していきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手先が器用で工作が好きな方については、工作教室に参加していただき、昔畑仕事で得意だった方には、プランターで野菜作りをしていただくなど、好きな事を活かす場を提供できるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年末年始の外出、外泊はできています。ご家族の希望による外出もできています。GH内でも、定期的な外出を行っています。	入居者の希望を聞き、お弁当持参のドライブ、外食、屋外での野菜作りなど、五感刺激となる外出支援を積極的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方には、本人に管理をお願いしている。自分で管理ができない方については、事務所で預かりして管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話や手紙のやりとりの支援は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、テレビの音量には配慮をしています。 また、昔の音楽を流し、一緒に口ずさみながら、ゆったりとした空間を作るように心掛けています。	清潔感と潤い・季節感のある空間作りを入居者と共に心掛けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士が自由に過ごせるように、椅子や机を数か所に置いている、また、入居者の方が好きな場所を職員が把握して、誘導する様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用できる方は、部屋に置いてある方もいらっしゃいますが、馴染みの物については、今後の課題です。	居室に広い収納スペースがあるため家具等の持込はないが、思いの籠った品やホームで作った作品を飾るなど、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はスペースが広く、歩行訓練やリハビリテーションを行うことが容易である。また、安全には最大限の配慮をして生活していただいています。		